

特定有人国境離島地域の現状と課題

特定有人国境離島の人口、事業所数等

	人口(人)	高齢化率(%)	事業所数(所)	開業率(%)	就業者数(人)	財政力指数
利尻・礼文	8,705	32.9	549	3.1	5,251	0.12
奥尻島	3,033	32.7	224	3.6	1,456	0.13
伊豆諸島南部地域	11,456	22.9	875	9.6	6,103	2.00
佐渡	62,727	35.8	3,972	2.9	31,746	0.25
舩倉島	110	54.5	1,838の内数	2.7(輪島市)	103	0.22(輪島市)
隠岐諸島	21,688	39.7	1,449	4.2	9,991	0.12
見島	963	39.7	3,178の内数	4.1(萩市)	543	0.32(萩市)
壱岐島	29,377	31.8	1,547	2.7	13,873	0.22
対馬	34,407	31.8	2,014	4.3	15,507	0.18
五島列島	68,549	35.1	3,822	3.5	28,625	0.31
甌島列島	5,576	42.2	4,498の内数	4.5(薩摩川内市)	2,330	0.48(薩摩川内市)
種子島	31,865	31.8	1,752	3.2	16,555	0.24
屋久島	13,589	28.0	1,044	4.6	6,675	0.26
三島	418	27.9	18	0.6	212	0.05
吐噶喇列島	657	17.6	44	0.8	351	0.05
全国平均	—	23.1	—	5.9	—	0.47

人口：H22年度国勢調査結果　高齢化率、就業者数：H26年離島統計年報　事業所数、開業率：H22経済センサス　財政力指数：H26地方財政状況調査
 色塗り：15地域で最も高い(黄)もの、低い(青)ものを示す(一部市内の離島を除く)

特定有人国境離島の現状と課題(利尻・礼文)

概況

位置	礼文島は北海道稚内市より西方へ52km、利尻島は西方へ59kmに位置		
島の構成	利尻島と礼文島の二島。3町で構成。		
行政区域	礼文町、利尻富士町、利尻町		
人口	8,705人	高齢化率	32.9%
事業所数(開業率)	549(3.1%)	就業者数	5,251人
財政力指数	0.12		

主要な産業

○水産業

水産業は地域にとっての基幹産業。ウニ、コンブ、ホッケ、ナマコなどが主要魚種。コンブの養殖事業化やウニやナマコの人工種苗生産を実施。過疎化や少子高齢化による漁業就業者の減少が進んでおり、後継者の育成・確保が課題。

○農業

自家消費の兼業農家が大半を占める。北方離島特有の積雪・寒冷・強風という厳しい自然条件の下、独立した産業として農業を営むのは困難であり、農業後継者や新規参入者の就農の期待は薄い。一方で、土壌条件に応じた薬物植物の栽培など、新たな農業振興策の検討も進められている。

○工業

水産加工業が中心。経営規模は小さく、本土までの運搬距離や雇用における高齢化などが課題。

○商業

経営規模が小さく、人口減やコンビニストアの進出、インターネットの普及等により、地域商店街での購買力が低下している。

観光・交流

○豊かな景観、高山植物、海の幸などが観光資源。水産業、宿泊産業などへの経済的な波及効果大きい。観光シーズンは極端な夏季偏重。

○中学生のサハリン訪問などの各種交流事業が中断しているが、礼文高校のロサンゼルス海外短期留学事業など新たな取組も進められている。

特定有人国境離島の現状と課題(奥尻島)

概況

位置	江差町より北西へ61kmの日本海上に位置		
島の構成	奥尻島1島で構成		
行政区域	奥尻町		
人口	3,033人	高齢化率	32.7%
事業所数(開業率)	224(3.6%)	就業者数	1,456人
財政力指数	0.13		

主要な産業

○水産業

イカやホッケなどの漁船漁業とウニやアワビなどの磯根漁業が主たる産業。商業者数の減少や担い手の高齢化、水揚額の停滞などが課題である。ナマコの栽培やイワガキの養殖、ブランド化に向けた取組などが進められている。

○農業

北海道の離島で唯一となる水稻栽培及び肉牛飼育の複合型経営が主体となっている。経営規模が小さく、就業者の高齢化、後継者不足の現況にあり、近年は立茎アスパラガスの栽培やワイン用ブドウの栽培など新たな取組も進められている。

○林業

島面積の大半がブナの原生林で占められ、豊かな森林資源の有効活用を図るため、木質バイオマスの利活用に向けた検討が進められている。

○工業

中心的な役割を果たしてきた水産加工業が、漁獲量の伸び悩みなどにより停滞している状況。パーライトの採掘が行われており、建築用資材などの原料として道外へ出荷されている。

○商業

小規模経営が中心で、高齢化や後継者不足のほか、本土資本の店舗の進出や通信販売の利用者の増加などにより購買力は低下している状況。

観光・交流

○「観る観光」から「滞在交流型観光」への転換を図るべく、「奥尻フットパス」コースの開設、「アワビ狩り」のメニュー化などを進めている。

○八雲町との間で経済懇談会が開催され、北海道新線の新八雲駅(仮称)開業など時代に対応すべく、緊密な連携を進めている。

〔概況〕人口：H22年度国勢調査結果 高齢化率、就業者数：H26年離島統計年報 事業所数、開業率：H22経済センサス 財政力指数：H26地方財政状況調査

〔主要な産業、観光・交流〕離島振興計画から抽出し記載

特定有人国境離島の現状と課題(伊豆諸島南部地域)

概況

位置	東京から南南西約180kmから350kmの太平洋上		
島の構成	三宅島、御蔵島、八丈島、青ヶ島村の4島から構成。1町3村。		
行政区域	三宅村、御蔵島村、八丈町、青ヶ島村		
人口	11,456人	高齢化率	22.9%
事業所数(開業率)	875(9.6%)	就業者数	6,103人
財政力指数	2.0		

主要な産業

○水産業

黒潮の恵みと複雑な海底地形により、キンメダイ、カツオなど日本屈指の好漁場が形成されている。台風や低気圧による施設や漁船への被害が生じているほか、長時間輸送による荷痛みや流通コストの高さなども漁業者の負担となっている。

○農業

黒潮の影響を受け、高温多湿な気候条件となっているが、季節風や台風などによる強風の日が多く、全国でも有数の強風地域及び多雨地域となっている。有機質の土壌のため、耕地には恵まれないところも多いが、そのような特性を生かし、アシタバや花き・観葉植物などの農業生産が行われている。耕作放棄地の有効利用や商工業者等と連携した特産物の加工品開発などが課題。

○商工業

アシタバ加工品などの農産加工品、くさやなどの水産高品をはじめ様々な特産品がある一方、収益性を高めるための他産業と商工業との連携が進んでいない。また、生産者の規模が零細な上、その生産物はブームの影響を受けやすいため、安定的な経営が課題。

観光・交流

○施設や名所見学といった従来型の観光メニューが中心。観光客の新たなニーズに対応する観光メニューが少ない。台風などによる荒天が多いにもかかわらず、雨天・荒天時に対応できる観光資源が少ない。

○老朽化した観光施設や宿泊施設が多く、観光客のニーズに応えきれない場合がある。

〔概況〕人口：H22年度国勢調査結果 高齢化率、就業者数：H26年離島統計年報 事業所数、開業率：H22経済センサス 財政力指数：H26地方財政状況調査

〔主要な産業、観光・交流〕離島振興計画から抽出し記載

概況

特定有人国境離島の現状と課題(佐渡)

位置	新潟港から67kmに位置		
島の構成	佐渡島一島からなる。1市で構成。離島振興対策実施地域において人口・面積ともに国内最大の離島。		
行政区域	佐渡市		
人口	62,727人	高齢化率	36.8%
事業所数(開業率)	3,972(2.9%)	就業者数	31,746人
財政力指数	0.25		

主要な産業と課題

○水産業

佐渡海域は主要な漁場として位置づけられ、漁獲量は県全体の28%を占めている。しかし、就業者の減少と高齢化等により漁獲量は低迷しており、水産物の安定供給体制や魚価の低迷などが課題。

○農業

水稻を主体としているが、地域性を生かし、国仲平野では稲作、南佐渡では柿を主とした果樹、その他の海岸段丘では稲作と肉用牛による経営が営まれている。農業は、基幹産業として重要な位置を占めているが、高齢・小規模・兼業の農家が多く、商品化意識が低いことなどが課題。

○林業

佐渡島に占める森林面積の割合は7割であり、島の保全や水資源のかん養など、多様な役割を果たしている。近年、木材価格の低迷や生産コストの増加による採算性の悪化、従事者の高齢化や後継者不足等から生産活動が停滞している。乾しいたけ、生しいたけ、竹材及び木炭などが地域の重要な産業となっているが、近年は、生産者の高齢化等で、生産量が最盛期の1割程度となっている。

○新たな産業

海洋深層水を活用し、製塩工場や飲料用のボトリング工場が進出。水産分野においても深層水の清浄性を活かした良質なクロアワビの種苗生産やホッコクアカエビやズワイガニ等の蓄養がなされている。近年は、電子部品・デバイス・電子回路の製造において更なる集積や技術の高度化が図られているほか、情報サービス業やコールセンター業等のIT関連産業の進出が実現し、雇用の拡大に寄与。

観光・交流

○海・山など恵まれた自然景観や、歴史的遺産、伝統芸能などの豊かな歴史文化を有し、GIAHS(世界農業遺産)への登録や36年ぶりとなる自然界での国際保護鳥トキのヒナ誕生などにより、全国的に知名度は高い。しかし、観光入込客数は年々減少傾向にあり、海路に頼らざるを得ない佐渡観光において、移動にかかる時間とコスト面からくるハンディを克服するような魅力や特色を打ち出せなかったことなどが考えられる。

〔概況〕人口：H22年度国勢調査結果 高齢化率、就業者数：H26年離島統計年報 事業所数、開業率：H22経済センサス 財政力指数：H26地方財政状況調査

〔主要な産業、観光・交流〕離島振興計画から抽出し記載

特定有人国境離島の現状と課題(舢倉島)

概況

位置	輪島市北方の日本海中央部に位置		
島の構成	舢倉島一島で構成。		
行政区域	輪島市の一部		
人口	110人	高齢化率	54.5%
事業所数(開業率)	1,838の内数(市2.7%)	就業者数	103人
財政力指数	0.22		

主要な産業と課題

○水産業

漁業が島の主産業であり、漁獲時期のピーク時で海女等の漁業関係者を主体として200人ほど、冬期間では50人ほどが漁業に従事。本島の漁業形態は漁船による操業に加え、いわゆる伝来の海女漁法によるサザエ、アワビ漁に特色を有しており、それが独特の風土を醸し出している。平成21年度に商標登録を受けたアワビについては、「輪島海女採り」とタグを付けブランド化を進めている。

水揚量は最近5年間では200トンから300トンで推移しているが、10年前と比べると約1/2に減少し、水揚高も国外の安い魚が大量に市場に出回り、魚価にも深刻な影響が出ている。島では少子高齢化が進んではいるが、水産業への就労意欲は強く、島での就労や後継者育成の取り組みが必要である。

観光・交流

○従来より磯釣りやバードウォッチングの適地として知られ、近年は住民自らにおいても島の新しい観光資源として認識を深めている。近年、滞在交流型観光を望む人も増えており、地域資源を活かし、舢倉島ならではの滞在交流型観光を検討する必要がある。今後は世界農業遺産その他の地域資源を有効に活用し、本土と一体となった観光振興策を検討する必要がある。

特定有人国境離島の現状と課題(隠岐諸島)

概況

位置	島根県沖の日本海上。		
島の構成	島後、中ノ島、西ノ島、知夫里島の4島からなる。3町1村で構成。		
行政区域	隠岐の島町、海士町、西ノ島町、知夫村		
人口	21,688人	高齢化率	39.7%
事業所数(開業率)	1,449(4.2%)	就業者数	9,991人
財政力指数	0.12		

主要な産業

○水産業

アジ、サバ、イワシといった多獲性魚種や松葉ガニ、白バイのほか、全国で初めて養殖に成功したイワガキなどの特色ある水産物が数多く水揚げされている。加工品化やブランド化による高付加価値化を進めることで収益性の向上を図るほか、販路拡大の取組みを実施。

自営漁業者の減少と高齢化は顕著で、新規就業者の育成・確保が急務であるほか、基幹漁業であるまき網漁業では老朽化する漁船の更新が課題。

○農業

藻塩米や隠岐牛といったブランド産品などが高く評価されている。品質向上や生産量の拡大など、生産体制の確立、拡大に取り組んでいる。担い手の育成・確保は喫緊の課題であり、農地集積や集落営農組織の法人化など経営基盤強化・経営安定の取組みを進めている。

また、地産地消を進めるため農産物直売所を整備し、農産物や加工品を集荷販売し、地元産農産物の消費拡大を図る取組みを実施。

○林業

スギを中心とした人工林が利用期を迎えているが、国内産木材の利用低迷と価格低下、森林管理者の高齢化を背景に十分な活用がされていない状況。合板材などとして島外出荷の拡大が必要であり、出荷体制や品質向上に取り組んでいる。

また、木質バイオマスの燃料としての活用や原木しいたけの栽培なども進めている。

観光・交流

○隠岐ユネスコ世界ジオパークに認定された火山と海食によって作り出された雄大な自然が魅力。単に見るだけでなく「隠岐の島ウルトラマラソン」や「とって隠岐スリーデーウォーク」といった体験型のイベントも人気がある。体験交流型の観光商品などの開発を実施。

○欧米からの個人客を中心とした外国人旅行者も増えつつあり、英語を併記したパンフレットを作成するなど受け入れ態勢を整備。

○全国から生徒を募集する「島留学」をはじめとした「高校魅力化」の取組が成果をあげるなど、先例的な取組を実施。

特定有人国境離島の現状と課題(見島)

概況

位置	萩市沖北 北西約45キロメートルの日本海上		
島の構成	見島一島で構成。		
行政区域	萩市の一部		
人口	963人	高齢化率	39.7
事業所数(開業率)	3,178の内数(萩市4.1%)	就業者数	543
財政力指数	0.32		

主要な産業

○水産業

一本釣り、採介藻を中心とした漁業が営まれ、ぶり、あまだい、うに、さざえなどが水揚げされている。貝類の増殖場を整備し種苗放流を行うなど、生産基盤を積極的に整備してきた。ダイビング関連施設を活用し、漁協及び漁業者の事業の多角化と収益増大をあわせて、観光客との滞在交流型観光も進める。一方、漁獲量の減少、魚価の低迷により漁業者の経営は年々厳しくなっており、また、漁場の保全、資源管理対策も課題となっている。

○農業

稲作を中心に施設園芸、葉たばこ、漬物用だいこんを組み合わせた経営が行われている。圃場はほとんどが傾斜地で立地条件に恵まれておらず、農業従事者の高齢化、少子化による後継者不足が課題となっている。見島牛は日本で最も古い和牛とも言われており、「見島ウシ産地」は国指定天然記念物となっている。

観光・交流

○年間を通じ遊漁客も多く、クロマグロトーナメントやバードウォッチングなど多様なイベントも開催されている。

○国指定史跡「見島ジーコンボ古墳群」の周辺などは環境整備が進んでいない状況。伝統凧「おにようず」や祝謡「シヨンガエー節」など島固有の文化の継承も図りながら、歴史的、文化的な観光資源などを活用した観光振興を推進する。

【概況】人口：H22年度国勢調査結果 高齢化率、就業者数：H26年離島統計年報 事業所数、開業率：H22経済センサス 財政力指数：H26地方財政状況調査

【主要な産業、観光・交流】離島振興計画から抽出し記載

特定有人国境離島の現状と課題(壱岐島)

概況

位置	福岡県と長崎県対馬の中間地点に位置		
島の構成	壱岐島、大島、長島、原島、若宮島の5つの有人島と、19の無人島で構成。1市。		
行政区画	壱岐市		
人口	29,377人	高齢化率	31.8%
事業所数(開業率)	1,547(2.7%)	就業者数	13,873人
財政力指数	0.22		

主要な産業

○水産業

多くの天然礁が点在する好漁場に恵まれているので、イカ、ブリ等の釣漁業をはじめ、定置網、採介藻、刺網等のほか内湾域では魚介類の養殖が行われている。

○農業

肉用牛、水稲、葉たばこを基幹作物とし、その他いちご、アスパラガス、メロン等を特産物としている。

○工業

水産品を原料とするイカ、ウニ等壱岐の資源を活用した加工が行われている。

○商業

単なる商品販売や食事提供ばかりではなく、壱岐の風情ある街並みを演出し、高齢者にもやさしく便利な生活の支援となる場とするなどが課題。

○伝統産品

肉用牛、水稲、葉たばこ、イカ、寒ブリ、ウニ、壱岐焼酎など。生産者・市場・物流・観光・漁協等地域が一体となって販路拡大や品質の向上に取り組むこと等が求められる。

観光・交流

○観光客の来島は、海水浴を中心として夏場に集中していて、年々減少傾向にある。

○国指定特別史跡「原の辻遺跡」をはじめ、古墳群や神社群など数多くの歴史資源があり、風光明媚な海岸線や砂浜が点在するなど自然環境に恵まれている。

○滞在型観光の確立のほか、観光拠点の整備、体験観光施設の整備、体験観光誘致などをさらに推進。

〔概況〕人口：H22年度国勢調査結果 高齢化率、就業者数：H26年離島統計年報 事業所数、開業率：H22経済センサス 財政力指数：H26地方財政状況調査

〔主要な産業、観光・交流〕離島振興計画から抽出し記載

特定有人国境離島の現状と課題(対馬)

概況

位置	九州最北端、韓国・釜山まで約50kmに位置		
島の構成	対馬島を中心に海栗島、泊島、赤島、沖ノ島、島山島の6つの有人島と102の無人島からなる。1市。		
行政区域	対馬市		
人口	34,407人	高齢化率	31.8%
事業所数(開業率)	2,014(4.3%)	就業者数	15,507人
財政力指数	0.18		

主要な産業

○水産業

イカ釣り漁業が主体。その他、東水道でのタイ、ブリ釣り漁業、西水道でのヨコワひき縄漁業、南西海域でのシイラ漬漁業、全島地先での定置網漁業、浅茅湾を中心に真珠養殖やマグロ養殖が盛んである。海藻が消滅する「磯焼け」が進行しており、対策が課題。

○農業

就業者が年々減少し、後継者確保が課題。耕作放棄地の解消や収穫量を増加させる土壌の肥沃化、経営の合理化などが課題。

○林業

勤労者の減少や高齢化、後継者不足及び材価の低迷など、林業を取り巻く状況は厳しい状況。

○工鉱業

公共事業は減少傾向であるが、建設業の占める割合は高い。また、厳原町阿須地区で産出される陶石類は日本三大産地の一つとなっている。

○商業

卸売業、小売業ともに小規模なものが多い。飲食料品小売業の売上が高く大型小売店も進出してきている。

○伝統産品

対州そば、肉用牛など。

観光・交流

○歴史・自然・文化といった対馬独自の豊かな観光資源を有していること、イベントの集客力が高まったことなどにより、観光客・交流人口は増加傾向。

○海や山と関連づけた体験型プログラムや、韓国を中心とする国外からの観光客への対応など、受け入れ体制の充実が課題。

特定有人国境離島の現状と課題(五島列島)

概況

位置	五島列島地域は九州の最西端に位置し、長崎港から西へ約100kmに位置。		
島の構成	五島市(下五島地域)と新上五島(上五島地域)の1市1町。		
行政区域	新上五島町、五島市		
人口	68,549人	高齢化率	35.1%
事業所数(開業率)	3,822(3.5%)	就業者数	28,625人
財政力指数	0.31		

主要な産業

○水産業

西日本有数の漁場でまき網漁業、一本釣り漁業等の漁船漁業、定置網漁業、養殖業が盛ん。アジ、ブリ、タイ、トビウオ、イサキなどの漁獲量、ふぐや真珠などの収穫量が日本第一位となっている。

○農業

水産業に次ぐ主要産業となっている。肉用牛、豚、葉タバコ、米を基幹作物とし、野菜、茶などを生産。

○林業

人工林の利用間伐を進め、島内外への木材出荷を拡大する。椿油増産のための森林整備を実施。

○工業

水産品を原料とする蒲鉾等の練製品や干ものなどの水産加工品を生産。

○商業

小規模な商店がほとんどであり、消費流出を食い止めるとともに観光産業等の振興により消費者の流入を図ることが課題。

○伝統産品

あご製品、五島手延うどん、かんころ餅、椿油等の椿製品があるが、経営の安定化や販路拡大が課題。

観光・交流

○遣唐使やキリシタンの歴史など数多くの歴史、文化遺産に恵まれているものの、離島がゆえの割高感もあり、観光客数はおおむね横ばいで推移。

○上五島地域の「トライアスロン上五島」、下五島地域の「五島長崎国際トライアスロン大会」、協会巡りなど韓国や中国など東アジア地域との交流にも力を入れている。

特定有人国境離島の現状と課題(甑島)

概況

位置	県本土の西方約30kmの東シナ海上に、北東から南西の方向に約35kmにわたって位置		
島の構成	上甑島、中甑島、下甑島の3島		
行政区域	薩摩川内市の一部		
人口	5,576人	高齢化率	42.2%
事業所数(開業率)	4,498の内数(薩摩川内市4.5%)	就業者数	2,330人
財政力指数	0.48		

主要な産業

○農業

放牧形態による肉用牛や水稻、焼酎用さつまいも、そらまめ、パッションフルーツを生産。近年、ばれいしょ、たまねぎの生産振興を図っている。しかし、過疎化の進行により担い手は減少し、耕作放棄地が増加の傾向にある。

○林業

しいたけ、椿の実、木炭等を生産している。

○水産業

水産業は本地域の基幹産業であり、アジ、サバ、ブリ等の回遊魚をはじめ、キビナゴ、バショウカジキ、アワビ等の水産資源が豊富。地域特産魚であるキビナゴを用いた商材は、外食向け商材として県外出荷されている。その他、クロマグロ、カンパチ等の養殖も行われている。

○製造業

本格焼酎、水産加工品等が特産品。九州で唯一取水されている海洋深層水は、清涼飲料水、塩、にがりなどの製造・販売や、農業にも活用されている。

観光・交流

○日本の地質百選に認定されている鹿島断壁など美しい景観、カノコユリやカラスバト等の貴重な動植物、国指定無形民俗文化財の指定がなされた甑島のトシドン、新鮮な魚介類を生かした食など、特色ある観光資源を有している。

○これらの観光資源を生かして、里交流センターや県民自然レクリエーション村、体験宿泊施設、キャンプ場、海水浴場、遊歩道などの観光施設の整備が進められているほか、甑大明神マラソン大会、アクアスロン大会、イカ釣り大会、竜宮文化フェスタ等のイベントの開催により、積極的に地域外との交流を行っている。

○観光客数及び宿泊者数は、増加傾向になっている。

特定有人国境離島の現状と課題(種子島)

概況

位置	県本土の南方約40kmに位置		
島の構成	種子島と、その西方約12kmに位置する馬毛島の2島からなる。1市2町。		
行政区域	西之表市、中種子町、南種子町		
人口	31,865人	高齢化率	31.8%
事業所数(開業率)	1,752(3.2%)	就業者数	16,555人
財政力指数	0.24		

主要な産業

○農業

広い耕地面積、温暖な気候、基盤整備の進んだ畑地等の地域の特性を生かしたさとうきび、さつまいも、肉用牛の産地化が進んでいる。また、早期出荷産地として確立しているばれいしょ等の野菜、米、茶に加え酪農、葉たばこ、レザーリーフファン等の生産が盛ん。さとうきびを原料とする黒糖や、さつまいも等を利用した菓子等の農産物加工品を製造。台風等自然災害の軽減、シカ等による農作物被害の防止、予冷施設等の整備、流通コストの低減、農業従事者の高齢化に伴う担い手確保等が課題。

○林業

建築用材やチップ用材のほか、たけのこやしいたけ、つわぶき等の山菜類、シキミ等の枝物を生産。

○水産業

周辺海域は、天然の瀬礁や黒潮により好漁場だが、外海域に面するため海況等の影響を受け、好不漁の変動が激しく漁獲が不安定。また、漁業者の高齢化、後継者不足が大きな課題。

○製造業

本格焼酎、種子鋏、種子包丁、農水産加工品等の魅力的な特産品に恵まれているが、企業の多くは零細企業であり、新商品開発や販路開拓、県外へのアプローチが課題。

観光・交流

○変化に富んだ美しい海岸線などの豊富な自然、実用衛星打上げ基地「種子島宇宙センター」、トコブシやトビウオ等の食など、特色ある観光資源を有している。また、サーフィン等のマリンスポーツに適した地域としての評価も定着してきている。

○鉄砲伝来の地としてポルトガルのヴィラ・ド・ビスポ市と姉妹都市、宇宙関連施設があることから米国NASAケネディ宇宙センターと交流がある。

特定有人国境離島の現状と課題(屋久島)

概況

位置	県本土の南方約60km, 種子島の南西18kmに位置		
島の構成	屋久島とその西北西約12km に位置する口永良部島の2島で構成。1町からなる。		
行政区域	屋久島町		
人口	13, 589人	高齢化率	28%
事業所数(開業率)	1, 044(4. 6%)	就業者数	6, 675人
財政力指数	0. 26		

主要な産業

○農業

温暖な気候を生かし、ポンカン、たんかん等の産地化が進んでいる。やまいも、ポンカン、たんかん等の地域特産物を利用した農産加工品の製造や、自然牧野を利用した肉用牛の養殖経営が行われている。台風、季節風等の自然災害の軽減、サル・シカ等による農作物被害の防止、輸送コストの低減、高齢化に伴う担い手の確保等が課題。

○林業

建築用材のほか、たけのこ、しいたけ、つわぶき等の山菜類、シキミ等の枝物が生産されている。林道等の整備遅れや、就業者の高齢化、人手不足などから、森林の適正な管理が実施されにくい状況。

○水産業

周辺海域は、天然の瀬礁や黒潮により好漁場だが、外海域に面するため海況等の影響を受け、好不漁の変動が激しく漁獲が不安定。また、漁業者の高齢化、後継者不足が大きな課題。

○製造業

本格焼酎、屋久杉製品、農水産加工品等の魅力的な特産品に恵まれているが、企業の多くは零細企業であり、新商品開発や販路開拓、県外へのアプローチが課題。

観光・交流

○樹齢数千年に及ぶ屋久杉をはじめとする原生林、白谷雲水溪や大川の滝等の水景観、海中温泉などの多彩で豊かな自然を有し、平成5年には世界自然遺産に登録され、国際的な知名度により、観光地としても定着してきている一方、利用者の集中による植生の荒廃等が生じてきており、環境保全が課題となっている。

〔概況〕 人口：H22年度国勢調査結果 高齢化率、就業者数：H26年離島統計年報 事業所数、開業率：H22経済センサス 財政力指数：H26地方財政状況調査

〔主要な産業、観光・交流〕 離島振興計画から抽出し記載

特定有人国境離島の現状と課題(三島)

概況

位置	薩摩半島南端から南南西約40kmの位置		
島の構成	竹島、硫黄島及び黒島で構成。1村。		
行政区域	三島村		
人口	418人	高齢化率	27.9%
事業所数(開業率)	18(0.5%)	就業者数	212人
財政力指数	0.05		

主要な産業

○農業

農業生産額の約9割を畜産肉用牛が占め、地域の基幹産業となっている。高齢化や後継者不足に加え、飼料等が割高なこと、傾斜地が多く自給飼料の確保が困難なこと、放牧主体の飼養管理により子牛の発育が遅れていること等が課題。その他、びわ、たんかん、サンセベリア等を生産。

○林業

硫黄島で樺の実、竹島・硫黄島でたけのこを生産。また、樺油や樺油で作った石鹸、シャンプーなどの加工品を製造。

○水産業

周辺海域に優良な漁場を有し、漁業への積極的取組がみられるものの、流通施設等の不備のため総じて漁業が振るわない。しかしながら、新たな急速冷凍による鮮魚出荷の取組が始まっており、離島のハンディを克服するものとして期待されている。

○製造業

特用林産加工品等の魅力的な特産品に恵まれているものの、製造は小規模な団体や個人によるものであり、新商品開発や販路開拓、県外へのアプローチが課題。

観光・交流

○海中温泉や砂蒸し温泉、県立自然公園に指定されている島々など豊かな自然、俊寛伝説などの歴史・文化、大名たけのこやイセエビ等の食などの観光資源を有している。

○観光協会の設立等による観光客の受入体制の整備が課題。

〔概況〕人口：H22年度国勢調査結果 高齢化率、就業者数：H26年離島統計年報 事業所数、開業率：H22経済センサス 財政力指数：H26地方財政状況調査
〔主要な産業、観光・交流〕離島振興計画から抽出し記載。なお、三島、吐噶喇列島は、同一の計画として策定されており、これを可能な箇所について分割して記載した。

特定有人国境離島の現状と課題(吐噶喇列島)

概況

位置	県本土の南方で広大な海域に点在		
島の構成	口之島、中之島、平島、諏訪之瀬島、悪石島、子宝島及び宝島から構成。1村。		
行政区域	十島村		
人口	657人	高齢化率	17.6%
事業所数(開業率)	44(0.8%)	就業者数	351人
財政力指数	0.05		

主要な産業

○農業

農業生産額の約9割を畜産肉用牛が占め、地域の基幹産業となっている。高齢化や後継者不足に加え、飼料等が割高なこと、傾斜地が多く自給飼料の確保が困難なこと、放牧主体の飼養管理により子牛の発育が遅れていること等が課題。その他、びわ、たんかん、サンセベリア等を生産。

○林業

黒島・諏訪瀬島・悪石島でたけのこを生産。また、椿油や椿油で作った石鹸、シャンプーなどの加工品を製造。

○水産業

周辺海域に優良な漁場を有し、漁業への積極的取組がみられるものの、流通施設等の不備のため総じて漁業が振るわない。しかしながら、新たな急速冷凍による鮮魚出荷の取組が始まっており、離島のハンディを克服するものとして期待されている。

○製造業

特用林産加工品等の魅力的な特産品に恵まれているものの、製造は小規模な団体や個人によるものであり、新商品開発や販路開拓、県外へのアプローチが課題。

観光・交流

○海中温泉や砂蒸し温泉、トカラ馬や野生の牛、県立自然公園に指定されている島々など豊かな自然、仮面神ボゼ祭りなどの歴史・文化、大名たけのこやイセエビ等の食などの観光資源を有している。

○観光協会の設立等による観光客の受入体制の整備が課題。

〔概況〕人口：H22年度国勢調査結果 高齢化率、就業者数：H26年離島統計年報 事業所数、開業率：H22経済センサス 財政力指数：H26地方財政状況調査
〔主要な産業、観光・交流〕離島振興計画から抽出し記載。なお、三島、吐噶喇列島は、同一の計画として策定されており、これを可能な箇所について分割して記載した。

